

主 催 公益財団法人 虚子記念文学館
後 援 芦屋市・芦屋市教育委員会

国際俳句交流協会・俳句ユネスコ登録推進協議会・公益社団法人 俳人協会
公益社団法人 日本伝統俳句協会・ホトトギス社

第十七回虚子生誕記念俳句祭

入 選 句 集

第十七回虚子生誕記念俳句祭 入選句集に寄せて

能登半島地震で被害に遭われた皆様にお見舞いを申し上げます。

「虚子生誕記念俳句祭」も第十七回を迎えることができました。新型コロナ流行の影響で中止しておりました表彰状の授与を再開する運びとなりました。青少年の部受賞者の皆様の元気なお声が戻って参りましたことを嬉しく思います。

毎年欠かさずこの会を開催することができますのはひとえに文化を愛し、俳句を愛する皆様のおかげと厚く御礼申し上げます。今回の行事の募集句を行いましたところ、一般の部一九〇名、八九二句、青少年の部六二一名、一、七四八句の作品が寄せられました。それらはみな非常に質の高い作品ばかりで、厳正な審査のもとに選考が行われ、その結果をここに入選句集の小冊子としてお届けいたします。

入賞された方々に対し心よりお慶び申し上げますと共に、次回には更に多くの方々からの参加をお待ちしております。この俳句祭がさらに充実して参りますことを祈念しております。

令和六年（二〇二四）年二月

虚子記念文学館長 稲畑廣太郎

一般の部

虚子生誕記念俳句大賞

笹鳴や大地の時計動き出す
兵庫 吉村 玲子

虚子生誕記念俳句奨励賞

千歳飴退屈が封切りたがり
兵庫 横山 脩子
雑踏の先は光の冬木立
兵庫 深尾真理子

芦屋市長賞

百人に百の観月物語
大阪 石橋 玲子

芦屋市教育長賞

喧騒は人の世のこと枯蓮
大阪 石井のぼる

審査委員奨励賞

荒星や一夜を灯す看護室	兵庫	三好なおみ
朝光やバカラの皿に桃一つ	兵庫	川村ひろみ
短日の懐にゐて嗟峨にゐて	兵庫	奥田好子
今さらと言うて言ひたし爛熟く	石川	辰巳葉流
大根干す静かに皺を増やしゆく	兵庫	田附光映
天空の隠し絵帰り花二輪	香川	原道子
草の花風は存問重ねつつ	福岡	鶴田優貴子
詩心を旅に養ふ去年今年	兵庫	柄川武子
板張りの廊下を下駄で昭和の日	大阪	山戸暁子
万卷の書が北窓を塞ぎけり	大阪	多田羅初美

青少年の部

虚子生誕記念俳句大賞

和太鼓の音こだまする寒稽古	兵庫	大西七海
---------------	----	------

甲南小学校4年

虚子生誕記念俳句奨励賞

秋空に何か忘れたまま駆ける	東京	野村仁愛
---------------	----	------

学習院女子高等科1年

にじきえておそらへかえっていつちやった

奈良	梨本結夢
----	------

奈良文化幼稚園

芦屋市長賞

負けた日はレモンの苦さ感じる日

学習院女子高等科1年
東京 岡沢優里奈

芦屋市教育長賞

五時の鐘色無き風を染めてゆく

学習院女子高等科1年
東京 ネポールシング優奈

審査委員奨励賞

冬の空誰かに少し優しくなれる

学習院女子高等科1年
東京 沼上 喜久

半袖があつという間に手袋へ

学習院女子高等科1年
東京 鎌田 琴子

星屑を縫いとめておくオリオン座

学習院女子中等科2年
東京 藤澤 優衣

起重機や三日月ひとつ吊り下げて

学習院女子中等科3年
東京 片岡 眞子

わずかなる日なたを選び春を待つ

学習院女子高等科1年
東京 高田 莉央

日隈こども園

アイドルになれますようにながれぼし

大分 古田 彩葉

跡見学園高等学校2年

君恋ひて窓を開けたら除夜の鐘

東京 堀尾 優宇

芦屋市立山手小学校6年

サイダーが夏の思い出はじいてる

兵庫 里井 隆平

熊本県立湧心館高等学校定時制1年

夜学生席に座れば夢の中

熊本 吉田 匠

宝塚市立御殿山中学校2年

小春日やこけら落としの長き列

兵庫 武田 奈々

一般の部 稲畑廣太郎 選

特選

百人に百の観月物語 大阪 石橋 玲子

千歳飴退屈が封切りたがり 兵庫 横山 脩子

雑踏の先は光の冬木立 兵庫 深尾真理子

入選

短日の懐にゐて嗟峨にゐて 兵庫 奥田 好子

無音でふ無限の調べ月今宵 大阪 石橋 玲子

火の神の形となりて吉書揚 香川 原 道子

詩心を旅に養ふ去年今年 兵庫 柄川 武子

初音聞けさうな野の色山の色 大阪 林 曜子

佳作

曼珠沙華海へ海へと紡ぐ赤 兵庫 川村ひろみ

七色をねぢりて販ぐ風船屋 大阪 石橋 玲子

夕星と指さす先の春動く 兵庫 道中 義臣

竹ゆする風の音にも冬近し 石川 松本 寿憲

胡弓の音闇を虜に風の盆 栃木 中村 早苗

今さらと云うて言ひたし爛熱く 石川 辰巳 葉流

茶の花の濃き日差しにも纏ふ黙 福岡 永利五十鈴

鳴さし音の乾いてをりし昼の虫 香川 永森ケイ子

虚子生誕汀子師忌日濃紅梅 兵庫 中村 澄子

田に入れば田の人となる頬被 大阪 上紺屋葉月

一般の部 坊城俊樹 選

特選

朴落葉鬼の恋文かも知れず 兵庫 吉村 玲子
 荒星や一夜を灯す看護室 兵庫 三好なおみ
 天空の隠し絵帰り花二輪 香川 原 道子
 入選

万巻の書が北窓を塞ぎけり 大阪 多田羅初美
 板張りの廊下を下駄で昭和の日 大阪 山戸 暁子
 大寒の大地踏みしめ決断す 大阪 須知香代子
 星月夜歩き癖ある下駄の音 岡山 池田 純子
 今さらと言うて言ひたし爛熱く 石川 辰巳 葉流

佳作

暮色負ふゼロ番線の雪をんな 大阪 石橋 玲子
 高稲架の上に夫ゐて下に妻 大阪 中谷まもる
 狢犬の阿吽を襲ふ花吹雪 愛知 山口こひな
 白山の裾野ぐらぐら大根引 石川 辰巳 葉流
 あの頃の小さき私と会ふ夜店 兵庫 池田雅かず
 初芝居三枿は永久に江戸の花 高知 和田 和子
 枯木中ミステリアスな靴一つ 兵庫 小柴 智子
 著ぶくれて影の重たくなりにつけり 福岡 石橋 武子
 落葉踏む遠い記憶の音を踏む 香川 三宅久美子
 折からの黄落まとひ善女たり 大阪 徳澤南風子

一般の部 和田華凜 選

特選

笹鳴や大地の時計動き出す 兵庫 吉村 玲子
 喧騒は人の世のこと枯蓮 大阪 石井のぼる
 草の花風は存問重ねつつ 福岡 鶴田優貴子
 入選

朝光やバカラの皿に桃一つ 兵庫 川村ひろみ
 大根干す静かに皺を増やしゆく 兵庫 田附 光映
 法庭のその一隅の冬紅葉 茨城 杉崎 淑子
 まだ青さ覚えてをりし新豆腐 岡山 池田 純子
 小春日や埴輪泣くとも笑ふとも 福岡 山口 裕子

佳作

鶴の来て出水の空の仕上りぬ 兵庫 柳生 清秀
 夕星と指さす先の春動く 兵庫 道中 義臣
 花の雲風に乗りくるミサの鐘 兵庫 塩見 成子
 海の色濃き日帰燕の空となる 岡山 名木田純子
 頂は雲に守られて山眠る 福岡 永利五十鈴
 ふるさとを素通りしたる十三夜 兵庫 田中 祥子
 小悪人われら虚子恋ふ冬銀河 大阪 生澤 瑛子
 月一度訪ふ虚子館や春の風 新潟 安原 葉
 出水野の鶴の万羽の鼓動聴く 大阪 山田 佳音
 枯蓮の折れて天衝く力かな 愛媛 豊田みゆき

青少年の部 稲畑廣太郎 選

特選

にしきえておそらへかえつていつちやつた
奈良文化幼稚園
奈良 梨本 結夢

和太鼓の音こだまする寒稽古
甲南小学校4年
兵庫 大西 七海

半袖があつという間に手袋へ
学習院女子高等科1年
東京 鎌田 琴子

入選

アイドルになれますようにながればし
日隈こども園
大分 古田 彩葉

サイダーが夏の思い出はじいてる
芦屋市立山手小学校6年
兵庫 里井 隆平

食欲は秋を過ぎても止まらない
学習院女子中等科2年
東京 鈴木 理緒

秋風が運ぶ眠気や五時間目
学習院女子中等科2年
東京 大塚英実里

姉に勝つ日はこないのか草相撲
中央大学杉並高等学校3年
東京 山中 美月

青少年の部 坊城俊樹 選

特選

秋空に何か忘れたまま駆ける
学習院女子高等科1年
東京 野村 仁愛

五時の鐘色無き風を染めてゆく
学習院女子高等科1年
東京 ネポールシゲ優奈

星屑を縫いとめておくオリオン座
学習院女子中等科2年
東京 藤澤 優衣

入選

君恋ひて窓を開けたら除夜の鐘
跡見学園高等学校2年
東京 堀尾 優宇

夜学生席に座れば夢の中
熊本県立湧心館高等学校校定時制1年
熊本 吉田 匠

流れ星待つて待つてと手を伸ばす
学習院女子中等科2年
東京 華村 ゆき

虹の端いくつになつても探してる
学習院女子高等科1年
東京 児玉 志帆

便箋の隣で歌う秋の風
学習院女子中等科3年
東京 土肥 暖葵

佳作

オルゴール聞こえてくるよ秋の風
カナディアン・アカデミー(小2)
兵庫 野黒 葉央

月あかり疲れた足で並木道
学習院女子中等科2年
東京 吉川 聖華

短日や高鳴る鼓動テスト前
学習院女子中等科2年
東京 平野 優奈

おかえりの声でマフラーそつと解く
学習院女子中等科2年
東京 宮田 莉生

隙間風冷えていくのは左腕
学習院女子高等科1年
東京 雨谷 真子

わずかなる日なたを選び春を待つ
学習院女子高等科1年
東京 高田 莉央

一年に別れをつけし除夜の鐘
学習院女子高等科1年
東京 志賀 悠花

夏座敷夢のすき間に陰ひとつ
学習院女子高等科1年
東京 佐野 帆南

一色を変えるべくして山粧ふ
学習院女子高等科1年
東京 黒澤 美裕

冬を描く画用紙の中全部白
跡見学園高等学校2年
東京 淀川 実歩

佳作

にしきえておそらへかえつていつちやつた
奈良文化幼稚園
奈良 梨本 結夢

くわがたのはさむところがかつこい
日隈こども園
大分 熊谷 呉来

髪が立つマフラー付けると静電気
学習院女子中等科2年
東京 足立 結

こたつにてみかん片手に冬眠す
学習院女子中等科2年
東京 加来 美結

赤くなる手先も顔も冬の恋
学習院女子中等科2年
東京 中沢 安那

クリスマス光り輝く街ひとり
学習院女子中等科2年
東京 丸山 凜子

ポケットを冷えたカイロが埋めつくす
学習院女子高等科1年
東京 田口 祥妃

海水浴時期をカモメが知らせてる
学習院女子高等科1年
東京 原 和香子

将来を色無き風に止められて
学習院女子高等科1年
東京 長崎 愛子

頬なでる春愁もまた独りよがり
学習院女子高等科1年
東京 高橋 咲子

青少年の部 和田華凜 選

特選

負けた日はレモンの苦さ感じる日
学習院女子高等科1年 東京 岡沢優里奈
 冬の空誰かに少し優しくなれる
学習院女子高等科1年 東京 沼上 喜久
 起重機や三日月ひとつ吊り下げて
学習院女子中等科3年 東京 片岡 眞子
 入選

わずかなる日なたを選び春を待つ
学習院女子高等科1年 東京 高田 莉央
宝塚市立御殿山中学校2年 兵庫 武田 奈々
 小春日やこけら落としの長き列
学習院女子中等科3年 東京 高垣 ねね
甲南小学校4年 兵庫 大西 七海
 和太鼓の音こだまする寒稽古
学習院女子高等科1年 東京 野村 仁愛
 秋空に何か忘れたまま駆ける

佳作

正の字の手本のごとく秋の空
学習院女子高等科1年 東京 塚本 遥南
 鳥雲に入る今日の夜東京へ
学習院女子高等科1年 東京 熊谷莉里子
 どうしても届かぬ高み冬の星
学習院女子中等科2年 東京 原 ひなた
 枯葉舞う保育園児の舞踏会
学習院女子中等科2年 東京 森 千春
 星月夜空の果てまで手を広げ
学習院女子高等科1年 東京 田中希心友
 頬なでる春愁もまた独りよがり
学習院女子高等科1年 東京 高橋 咲子
 枯園で生を終えゆくものの息
神戸中華同文学校(中学校1年) 兵庫 中西 鳳華
 国を越え笑顔あふれる春節祭
跡見学園高等学校2年 東京 淀川 実歩
 冬を描く画用紙の中全部白
奈良文化幼稚園 奈良 梨本 結夢
 にじきえておそらへかえっていつちやった

第17回虚子生誕記念俳句祭投句数内訳

一般の部	892句	190人
青少年の部 (内訳)	1,748句	621人
幼稚園以下	66句	43人
小学校	25句	7人
中学校	659句	224人
高等学校	998句	347人
合計	2,640句	811人

令和六(二〇二四)年二月発行
 第十七回虚子生誕記念俳句祭入選句集

公益財団法人 虚子記念文学館

〒六五九一〇〇七四

兵庫県芦屋市平田町八一二二

TEL (〇七九七) 二一一一〇三六

FAX (〇七九七) 三一一一三〇六